

慶蔵院寺報

公孫樹

2026年5月発行
第172号
浄土宗慶蔵院
伊勢市小俣町元町1211
TEL0596(22)3726



山村御流生け花 スカシユリと日の出つつじ 画 山寄淑子

護持会費は、六月集金とさせていただきます。

また今回のアンケートにも、お応えください。

従来、五月に集金させていただいてきた護持会費、今年度より、六月集金に変更させていただきます。変更の理由は、

- ① 会計事務所の導入に伴い、会計報告文書の配布が遅れること。
- ② 自治会費などの集金月と重なること。
- ③ 四月の振込による納入方法検討提案によるものです。

ご面倒ですが、今回、お配りした護持会費納入方法についての希望アンケートにご回報下さい。アンケートは、口座引き落としを希望される方、口座振り込みを希望される方のみ、寺世話人さんに提出して下さい。これまでどおりの集金を希望される方は提出していただくことなく結構です。よろしく願います。

すでに四月の検討の提案を受けて、早速、左記の口座番号に護持会費を振り込んでいただいた皆様には、六月の集金の際、寺世話人さんより領収書をお届けさせていただきます。

また、口座引き落としの申し込みの電話もいただいています。この方法による護持会費納入については、後日、農協の正式書面による手続きが必要となります。今回お配りしたアンケート用紙の「口座引き落としを希望する」に〇印をして提出して下さい。ある程度の人数が集まらないと許可にならない場合があるかもしれません。農協に通帳をお持ちの方は、この方法に、ご協力をいただければありがたいです。今回のアンケートで、お返事、よろしく願います。アンケートの結果を待って、手続きに入らせていただきます。

※慶蔵院、護持会費納入の口座番号は左記のとおりです。

JABANK 小俣支店(6731019) 普通口座 9411001

お葬儀ができた場合は、夜中でも、かまいません、最初に、慶蔵院にご連絡ください。電話 22-3726

5月の行事予定



6日(水)	花まつり	午前 10 時～ 本堂にて
11日(月)	華道「山村御流」教室 講師 小森清真先生	午後 1 時半～ 参加費 2000 円＋花代
13日(水)	・羊毛フェルト教室 講師 monmo 先生 ・男性詠唱隊 ・落語会「いちご亭」	午後 1 時～3 時 一会館にて 参加費 1500 円 午後 1 時半～3 時 本堂にて 午後 7 時～ 一会館にて
14日(木)	ともいき英語サロン 講師 三浦邦昭先生	午前 10 時～11 時半 午後 1 時半～3 時 一会館にて 参加費 1 回 1000 円
20日(水)	健康教室 講師 馬場久美子先生	午後 1 時～3 時 本堂にて 参加費 500 円
24日(日)	祈願とお加持・地藏堂開帳	12 時～银杏おにぎり 祈願とお加持は 1 時～
27日(水)	戦没者慰霊・平和の鐘 地藏講	午前 8 時頃 午後 1 時半～
8・22日(金)	茶道教室 講師 河井宗恵先生 樋口宗恵先生	午後 7 時～子ども茶道教室 午後 7 時半～大人茶道教室 参加費 大人 1500 円 一会館にて

慶蔵院豆知識 part2

36

イチヨウについて

漢字で「银杏」「公孫樹」「鴨脚樹」と書きますが、分類学上、裸子植物・イチヨウ綱・イチヨウ目・イチヨウ科・イチヨウ属・イチヨウ種の一つだけがあります。日本人にとって桜と同じように身近で親しみのある樹木です。街路樹や公園樹、寺院や神社の境内に多く植えられています。世界で最古の原生樹種のひとつで、地史的にはペルム紀(約三億年前)に出現し、中生代ジュラ紀(約二億年から一億四千万年前)まで、全世界的に繁茂しました。しかし新生代(六千四百万年前)に入ると、色々な種が各地で姿を消し、日本でも約百万年前に絶滅したため、本種が唯一現存する種で、生きている化石として絶滅危惧種に指定されています。野生のイチヨウは、現在では中国揚子江下流の浙江省天目山ほかにわずかに生き残っているだけです。

シダ植物と同じ原始的な生殖方法を持っており、精子が水中を泳いで受精し、子孫を作ります。イチヨウは雌花と雄花が別々の株に付く、雌雄異株です。雄花は四月に咲き、花粉を風によって飛ばします。受粉すると、花粉が精子に変わるのです。

イチヨウの実で银杏の悪臭は酪酸という成分によるもので、種皮にはイチヨウ酸、ギンコール、ヒロポールという三種類のアレルギー成分があり、直接肌に触れないよう注意が必要です。この成分はウルシにある成分に似たものです。種にはギントロトキシシンという神経毒成分があり、熱に強く、似ても焼いても消えませんが、一度に多量に食べないよう注意が必要です。

「公孫樹」は祖父(公)が植えると孫が食べることができるという伝承に基づいています。

(文 麻畑公生)



住職の健康回復への道のり(51)

先日、一階のクリニックの和彦先生から、「滋賀県立医大との共同研究がスタートすることになりました。新しく開発された心臓の血流を測定できる装置を使って、血液のサラサラ度をチェックしながら、現在使っているリクシアナ30mgの投薬を、減らしていきたいと考えています」と言ってもらいました。なかなか減薬は難しい課題です。それでもこの四年間で、高血圧の薬は、当初の四分の一以下、現在はアムロジピン2.5mgを半錠にして服用しています。合わせて利尿剤フロセミド10mgを併用しています。

また院長先生からは「内臓調整を通して健康体をつくり上げていくことにより、薬に頼ることなく、あらゆる病状が改善されている事実を、今回の共同研究により、世界内外に発表していきます。健康体をつくり上げていくことが、世界の医学の進歩に、大いに貢献できる機会となるでしょう」と言われました。楽しみなことです。

**令和8年度の寺世話人の皆様です。
今年度もよろしくお願ひいたします。**

倉野剛一さん 下 喜仁さん
太田茂男さん 麻畑公生さん
松家 昇さん 森下 幸さん
中山喜子さん 倉野幸次さん
飯田信雄さん 奥田悦生さん
中山憲一さん 椋本卓史さん
奥野秀子さん 藤原佳明さん
奥野幸宏さん 中尾美智子さん
中尾 稔さん

今年度から山西暁彦さんに代わり、山西弘重さんに寺世話人をお願いいたします。山西暁彦さん10年余にわたり、ありがとうございました。

花まつい
5月6日(土)午前10時
音読講師 林千智先生

林千智先生は、元勢和図書館司書さんで、現在は大学の講師もされています。慶蔵院の「子ども会」にも、何度か来ていただいたり、スカラシップの会の日本語授業で楽しいお話をしていただいたりしました。

今回は、「音読が健康寿命を延ばす」との先生の日頃の実践を話していただきます。私たちも、三月に参加させてもらってききました。あつという間に一時間半が過ぎていました、林先生のお話をききながら、自分で声を出して、楽しみながら参加して行ける内容だからです。今回の新しい「花まつり」の試み、ぜひ、多くの方に興味を持っていただいて、参加してもらいたいと願っています。

五月の掲示板

上流の少の汚れが、
下流へドドロとなる

いつも掲示板の文字を、書いていただいている檀家さんから、「仕事の関係で、五月の字を書く時間がとれません…」との連絡をいただいた。言葉を考え、文字も自分で書かなければならないと覚悟を決めていたが、なかなか進まなかった。毎回、檀家さんは、「中旬頃に掲示板の言葉をいただきに行きます」と連絡をくださる。指定された日時に間に合わせなければ…と集中して考えるから続いできた。ところが今回、もう27日。

この文章を書きながら、言葉を考えた。病気は下流にたまったヘドロのようなもの。上流で自分が流してきた元をたどり、自覚して、解決しなくてはならない…。環境も世の中もそうだろう。

慶蔵院団体参拝バス旅行

あと三名の空きがあります。最終締め切りは五月十日です。



落語会「いちご亭」
十三日(水)午後七時、慶蔵院「一会館」にて
出演 法話 慶蔵院住職 紙切り 安楽亭小東風
落語 南遊亭栄歌 安楽亭東風

安楽亭小東風(小学四年・晋之介君)の
紙切りも好評です。お楽しみに!!



鯉のぼり
空に泳げど糸はあり
自由と呼べる揺らぎの中で

奥田悦生



アフグエスクンで

銃弾に倒れた 中村哲彦は

生前に、こう語っていたという。

「日本国憲法は、

戦死者の

お位牌のようなもの」と。

お位牌は

永遠の「いのちをいただいた

目には見えな...先祖様の泣き

「お前の「いのち」は、私の「いのち」と

かたときもとられることなく

私たちを見つめ、祈りつづけてくれている。

その真実をいえたさう。

その句まことととを又けとめよう。

そして、私の人生を一步、

前にすすめよう...

くれも 往生という。日々往生。

立往生している場合ではない。

格也



かつて十数年前までは、毎日のようにホームページのブログを更新していたことがありました。「てらこや塾」「スカラシップの会」「住職活動日誌」「境内の四季」など、記録を残すように書きつづけてきました。それらは、今もホームページのどこかに眠っていると思います。

「公孫樹」がカラー版になり、写真も綺麗に印刷できるようになった機会に、「境内の四季」新聞版を、コーナーに入れてはどうだろうか...という提案が出されました。山村御流の生け花にも、境内の草木が花材として利用されています。スマホで写真を撮ってパソコンに入れ、新聞に編集したらいいのだから...と「境内の四季」の復活が決まりました。

左記の「野アヤメ」は、玄関前で咲いています。昨年、寺世話人の中山さん宅の庭に広がっていたものをいただき、玄関先に「地植え」と「鉢植え」とにしたものです。背丈がよく伸びて美しいです。こうして文章を書き出してみると、境内にあるあの花は、誰誰さんにいただいたもの、この木は...と思い起こさせられます。それを紹介するだけでもご縁の広がりを感じられ、このコーナー、続けられそうだと思えてきます。

「境内の四季」の定位置がどこになるのかは、まだわかりません。まずはこの場所から始めることにしました。